

2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年10月10日

上場会社名 アレンザホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3546 URL <https://www.alleanza-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼CEO (氏名) 浅倉 俊一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 三瓶 善明 (TEL) 024-563-6818
 四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 2023年11月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第2四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	75,706	0.9	2,520	△27.9	2,793	△25.0	1,787	△15.3
2023年2月期第2四半期	75,060	—	3,495	—	3,723	—	2,108	—

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 1,851百万円(△13.7%) 2023年2月期第2四半期 2,144百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2024年2月期第2四半期	59	30	59	23
2023年2月期第2四半期	69	95	69	87

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2023年2月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第2四半期	84,744	30,983	35.1
2023年2月期	82,493	29,651	34.5

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 29,729百万円 2023年2月期 28,438百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2023年2月期	—	19.0	—	19.0	38.0	
2024年2月期	—	19.0				
2024年2月期(予想)			—	19.0	38.0	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	154,000	3.2	5,900	9.4	6,250	5.6	3,650	34.8	121	24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年2月期2Q	30,193,386株	2023年2月期	30,193,386株
2024年2月期2Q	10,283株	2023年2月期	70,140株
2024年2月期2Q	30,141,421株	2023年2月期2Q	30,146,526株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	11
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2023年3月1日～2023年8月31日）におけるわが国経済は、政府による新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の発表とともに各種行動制限が解除されたことで、人流も回復し経済活動の正常化への動きが見られました。しかしながら、為替や長期化するウクライナ情勢の影響で資源、エネルギー価格が高止まりし、電力をはじめとして物価高が継続するなど国内景気の見通しは依然として不透明な状況が継続しております。

流通小売業におきましては、業界の垣根を越えた同質化競争、出店競争、コスト高の影響など企業収益の確保が困難な経営環境が続く中で、当社グループが主に事業展開するホームセンター業界は、物価高の影響を受けて総じて消費マインドは低く、消費者の節約志向が根強い状況でさらには感染症対策商品や巣ごもり需要が落ち込んだことも相まって売上指数が前年を下回る状況が継続しております。

このような状況下で、当社グループは「Challenge3000」営業収益3,000億円、経常利益率5%をグループ目標として掲げ、中期成長戦略として中核事業であるホームセンター事業を中心に収益基盤を強化するために、PB商品の開発に重点的に取り組んで参りました。また、各種専門店（ペット専門店、工具資材のプロショップ）の新規出店を積極的に推進するとともに、収益力の高い既存店の全面改装、部門改装を順次実施し、植物・園芸、アウトドア、ペット、自転車などの専門カテゴリーの品揃えの拡充、農機具・工具等の修理サービスやペットしつけ教室の開催など、付加価値サービスを提供することでお客様の目的来店性を高め地域一番店づくりに注力して参りました。

当第2四半期連結累計期間における新規出店としましては、ホームセンターを1店舗、ペット専門店4店舗、プロショップ1店舗の合計6店舗新たに開設し、ホームセンター1店舗、オフィス用品専門店1店舗、ペット専門店1店舗をそれぞれ閉店しております。これにより当第2四半期連結会計期間末の店舗数は293店舗となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の連結営業収益は、757億6百万円（前年同期比0.9%増）、連結営業利益は25億2千万円（前年同期比27.9%減）、連結経常利益は27億9千3百万円（前年同期比25.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億8千7百万円（前年同期比15.3%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

[ダイユーエイト]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で6.0%減少し、客単価が前年同期比で2.8%増加したことにより既存店売上高は3.4%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、期初は好天に恵まれたこともあってホームセンターの主力部門である園芸、植物、農業資材が好調に推移し、当第2四半期を通してペット用品、日用品は順調に売上を伸ばすことが出来ました。一方、前年は2022年3月に福島県沖地震の被害があった影響により、コーキング剤やセメント、合板などの補修資材、工具などの特需があったことで、当期はその反動減の影響が大きく、前年同期比で売上高が減少しております。また、7、8月は猛暑により扇風機やエアコンなどの季節商品が一時的に伸長したものの、園芸用品、木材塗料や作業資材など外で作業する商品の販売不振により前年同期比で既存店売上高は減収という結果となりました。

EC部門につきましては、コロナ禍を経て主要な購買チャネルとしてユーザーの日常ライフスタイルに定着しており、EC取扱高も年々伸長の一途をたどっているなかで、取扱い品目の増加、即日発送対応といった体制構築のコスト負担はあったものの、更なるユーザーサービスの向上に努めたこともあって前年同期比で売上高が増加しております。

利益面につきましては、成長戦略の商品力の強化として取り組んでいるホームセンターのPB商品について、円安が常態化する為替相場の影響で海外開発商品の調達原価の負担が上昇しているものの、取扱高が増加したこともあって商品荒利益率改善に寄与しておりますが、第2四半期は相対的に日用品等の売上構成比が増加したこともあって利益率は横ばいの結果となっております。

コスト面につきましては、資源価格の高騰や国内物価の上昇の影響で、水道光熱費が増加していること、また、キャッシュレス決済手数料、ECサイト販売手数料等のコスト負担増加の影響で販売費及び一般管理費が前年同期比で増加しております。

これらの結果、ダイユーエイトにおけるセグメント営業収益は230億8千8百万円（前年同期比2.8%減）、セグメント利益（営業利益）は6億4千3百万円（前年同期比45.1%減）となりました。

[タイム]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で5.6%の減少、客単価が前年同期比で4.3%増加したことにより既存店売上高は1.5%減少いたしました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、犬・猫フード、用品等が販売政策及び値上の影響により好調に推移しております。タイムの主要な出店エリアである中四国エリアは当期5月末に梅雨入りし、6月も前年比で降水量が多かったことで雨具・長靴等の作業衣料が好調であったほか、7月以降は猛暑日が続いたことで日用品・家庭用品・インテリア部門の季節商品が好調に推移いたしました。一方、春先の最需要期での天候不順や夏の異常気象により、植物・園芸用品・農業資材関連商品の売上が低迷いたしました。また、前期はコロナ禍での在宅勤務や外出自粛により、収納用品・床材等の売上増加、住まいのメンテナンス需要により木材・塗料等のDIY商品等が好調に推移しておりましたが、当期は一連の巣ごもり需要が落ち込んだ影響もあって第2四半期全体を通じて前年同期比で減収という結果となりました。

このような状況の中で、更なる集客力の向上を図り、家族で楽しく過ごせる地域密着型ホームセンターへ進化すべく、アプリ会員特典の強化、デジタルサイネージの効果的運用、d払いキャンペーンを行っており幅広い年齢層のお客様から支持されるサービスを実施いたしました。また、話題商品の品揃え、テーマ性のある売場づくりによる需要創造など、お客様に新たな発見をして頂ける提案を継続して実施しております。

販売費及び一般管理費につきましては、備品消耗品や水道光熱費の節約奨励や、作業計画に合わせた綿密な人員配置を行うことで残業時間の削減を行う等、効率を上げることで必要コストの圧縮に取り組んで参りました。

これらの結果、タイムにおけるセグメント営業収益は84億5千万円（前年同期比1.4%増）、セグメント利益（営業利益）は5千3百万円（前年同期比42.5%減）となりました。

[ホームセンターバロー]

ホームセンター事業は既存店ベースで、客数が前年同期比で5.7%減少、客単価が前年同期比で5.2%増加したことにより既存店売上高は0.7%の減少となりました。

売上高における既存店ベースでの商品別販売動向につきましては、第2四半期を通してコロナ禍後のお客様の行動様式の変化、原価高騰による値上げへの対応によりマスクなどの生活衛生関連商品やペット生体の売上高が前年同期比で落ち込みました。また猛暑により7月は冷風家電・作業衣料・インテリア・殺虫剤など季節商品が好調に推移いたしましたが、ゲリラ豪雨や8月まで長引く暑さなどの気候変動により、植物、園芸関連商品や建築資材商品の売れ行きは低迷しております。対応としては7月から各品種の消耗品にて「地域最安」商品の展開やまとめ売りなど、買上点数を1点多く買って頂けるよう提案を実施して参りました。リフォーム需要は第1四半期に引き続き、前期を大きく上回る売上となっております。また、高まる防犯関連商品対応として、特に空き巣への対策を重点に企画展開し、水害・雷・濁水などの防災対策商品についても同様にカテゴリーを越えた企画展開でホームセンターとしての提案を実施して参りました。

販売促進におきましては、紙チラシからSNSへの拡大を行っており店舗のイベント情報、お値打ち商品の紹介、節電や暮らしを改善する商品提案など各店で情報発信に取り組んでおります。

EC事業におきましては、期首から継続して売上高が前年比20%増で推移しております。翌日配送の在庫商品の選定や売価設定の自動化などの業務効率改善により売上高、営業利益ともに増加しております。

ペット事業におきましては、継続してPB商品の開発を進めておりPB商品販売比率を高めて参りました。店舗では推奨販売を行い、実際に使って頂くことでお客様に納得してご購入頂けるよう取り組んで参りました。トリミング・しつけ・動物病院などサービス部門につきましても引き続きお客様から多くのご要望を頂いております。

コスト面につきましては、水道光熱費の上昇やキャッシュレス比率増加に伴う手数料負担の増加はありますが、全社で経費削減に取り組むことで計画数値内で推移しております。

これらの結果、ホームセンターバローにおけるセグメント営業収益は291億4千6百万円（前年同期比2.1%増）、セグメント利益（営業利益）は10億4千5百万円（前年同期比20.5%減）となりました。

[アミーゴ]

ペットワールドアミーゴは既存店ベースで、客数が前年同期比で6.0%減少、客単価が前年同期比で4.7%増加したことにより既存店売上高は1.6%減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における商品別販売動向につきましては、コロナ禍における急激なペット需要がピークアウトしたことで、特に生体の販売数減少が顕著であったほか、ペットケージやサークルなどの関連用品の販売数も同様に前年比で減少している状況であります。生体以外のペットシートなどの消耗品、犬、猫おやつ、プレミアムフードは堅調に推移いたしました。

売上対策としては、什器レイアウトの変更、店舗設備の入替や活性化を目的として既存店3店舗の改装を実施いたしました。また、ペット文化・市場拡大の推進と成長戦略の柱としての新規出店としましては、群馬県初出店となる「ペットワールドアミーゴ前橋店」を出店しております。

コスト面につきましては、キャッシュレス決済手数料の増加、水道光熱費の増加などコスト負担が増加しておりますが、第2四半期全体を通して継続的に各種コスト削減に取り組んでおります。

これらの結果、アミーゴにおけるセグメント営業収益は106億9千7百万円（前年同期比4.3%増）、セグメント利益（営業利益）は6億3千万円（前年同期比22.7%減）となりました。

[その他]

セグメント営業収益は92億9千1百万円（前年同期比4.6%減）、セグメント利益（営業利益）は18億5千2百万円（前年同期比16.1%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の財政状態としましては、総資産が847億4千4百万円、負債が537億6千万円、純資産は309億8千3百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は35.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2023年4月11日付「2023年2月期決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表しました業績予想値に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,601	4,106
売掛金	2,061	2,489
棚卸資産	25,977	26,487
未収入金	5,547	5,850
その他	1,234	1,310
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	38,421	40,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,733	45,963
減価償却累計額	△23,842	△24,511
建物及び構築物（純額）	20,890	21,451
土地	4,109	4,109
リース資産	3,432	3,554
減価償却累計額	△1,732	△1,800
リース資産（純額）	1,700	1,753
その他	9,083	8,920
減価償却累計額	△6,484	△6,663
その他（純額）	2,598	2,257
有形固定資産合計	29,298	29,571
無形固定資産		
のれん	1,515	1,467
その他	5,355	5,435
無形固定資産合計	6,870	6,903
投資その他の資産		
敷金及び保証金	6,019	6,041
その他	1,919	2,021
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	7,902	8,027
固定資産合計	44,072	44,502
資産合計	82,493	84,744

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,194	10,073
電子記録債務	7,087	6,711
短期借入金	4,925	6,857
1年内返済予定の長期借入金	4,831	4,763
リース債務	737	761
未払法人税等	1,167	1,028
役員賞与引当金	42	4
契約負債	756	738
その他	6,591	6,345
流動負債合計	35,334	37,284
固定負債		
長期借入金	11,378	10,397
リース債務	1,494	1,451
役員退職慰労引当金	137	143
退職給付に係る負債	1,135	1,153
資産除去債務	1,587	1,664
その他	1,773	1,665
固定負債合計	17,507	16,476
負債合計	52,842	53,760
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,011	2,011
資本剰余金	12,502	12,506
利益剰余金	13,974	15,189
自己株式	△61	△5
株主資本合計	28,426	29,701
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	16
退職給付に係る調整累計額	11	12
その他の包括利益累計額合計	11	28
新株予約権	19	19
非支配株主持分	1,193	1,234
純資産合計	29,651	30,983
負債純資産合計	82,493	84,744

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年8月31日)
売上高	72,983	73,582
売上原価	47,800	48,416
売上総利益	25,182	25,166
営業収入	2,077	2,123
営業総利益	27,260	27,289
販売費及び一般管理費	23,764	24,768
営業利益	3,495	2,520
営業外収益		
受取利息	16	12
受取配当金	4	4
受取手数料	194	199
その他	117	132
営業外収益合計	332	349
営業外費用		
支払利息	44	40
借入手数料	6	5
為替差損	38	14
その他	15	15
営業外費用合計	104	76
経常利益	3,723	2,793
特別利益		
固定資産売却益	-	9
投資有価証券売却益	-	1
補助金収入	14	-
助成金収入	-	6
受取損害賠償金	57	-
その他	0	1
特別利益合計	72	19
特別損失		
固定資産除却損	26	19
固定資産圧縮損	5	-
減損損失	113	-
投資有価証券評価損	-	3
閉店損失引当金繰入額	151	-
災害による損失	108	-
災害損失引当金繰入額	38	-
その他	-	0
特別損失合計	443	23
税金等調整前四半期純利益	3,352	2,789
法人税、住民税及び事業税	1,405	1,038
法人税等調整額	△203	△72
法人税等合計	1,201	965
四半期純利益	2,151	1,823
非支配株主に帰属する四半期純利益	42	36
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,108	1,787

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年8月31日)
四半期純利益	2,151	1,823
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	27
退職給付に係る調整額	3	0
その他の包括利益合計	△6	27
四半期包括利益	2,144	1,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,103	1,804
非支配株主に係る四半期包括利益	40	46

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,352	2,789
減価償却費	1,414	1,507
減損損失	113	-
のれん償却額	47	47
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	38	-
閉店損失引当金の増減額 (△は減少)	148	-
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	40	18
株式報酬費用	26	28
受取利息及び受取配当金	△20	△16
支払利息	44	40
借入手数料	6	5
投資有価証券売却損益 (△は益)	-	△1
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	3
助成金収入	-	△6
受取損害賠償金	△57	-
補助金収入	△14	-
固定資産売却損益 (△は益)	-	△9
固定資産除却損	26	19
固定資産圧縮損	5	-
災害による損失	108	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△499	△427
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△781	△509
仕入債務の増減額 (△は減少)	543	503
未払消費税等の増減額 (△は減少)	242	270
未収消費税等の増減額 (△は増加)	127	56
その他	△350	△613
小計	4,563	3,705
利息及び配当金の受取額	13	8
利息の支払額	△42	△40
借入手数料の支払額	△6	△6
災害損失の支払額	△75	-
補助金の受取額	14	-
損害賠償金による収入	57	-
助成金の受取額	25	6
法人税等の支払額	△683	△1,123
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,865	2,549

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	-	10
投資有価証券の償還による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△1,987	△1,583
有形固定資産の売却による収入	-	14
有形固定資産の除却による支出	△0	△27
無形固定資産の取得による支出	△55	△251
貸付けによる支出	△10,705	-
貸付金の回収による収入	10,712	1
敷金及び保証金の差入による支出	△224	△231
敷金及び保証金の回収による収入	121	118
定期預金の預入による支出	△250	△250
定期預金の払戻による収入	150	250
その他	△18	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,257	△1,944
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,446	1,931
長期借入れによる収入	1,000	1,500
長期借入金の返済による支出	△2,431	△2,549
リース債務の返済による支出	△452	△404
配当金の支払額	△543	△570
自己株式の取得による支出	△0	△0
非支配株主への配当金の支払額	△14	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△994	△100
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	612	504
現金及び現金同等物の期首残高	4,228	3,348
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,841	3,853

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーバロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	23,479	8,234	28,526	10,260	70,501	4,559	75,060
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	282	95	14	—	392	5,175	5,568
計	23,761	8,330	28,541	10,260	70,893	9,734	80,628
セグメント利益	1,170	93	1,315	815	3,395	2,208	5,603

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,395
「その他」の区分の利益	2,208
セグメント間取引消去	△2,026
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	14
その他	△47
四半期連結損益計算書の営業利益	3,495

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ダイユーエイト」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては113百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	ダイユー エイト	タイム	ホームセンタ ーパロー	アミーゴ	計		
営業収益							
外部顧客への 売上高	22,821	8,352	29,135	10,697	71,007	4,698	75,706
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	267	97	11	—	376	4,593	4,969
計	23,088	8,450	29,146	10,697	71,383	9,291	80,675
セグメント利益	643	53	1,045	630	2,372	1,852	4,225

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アレンザホールディングスにおける取引等のほか、アレンザホールディングス、ダイユーエイト、タイム及びアミーゴそれぞれの関係会社が含まれています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,372
「その他」の区分の利益	1,852
セグメント間取引消去	△1,613
のれんの償却額	△47
固定資産の調整額	13
その他	△57
四半期連結損益計算書の営業利益	2,520

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。